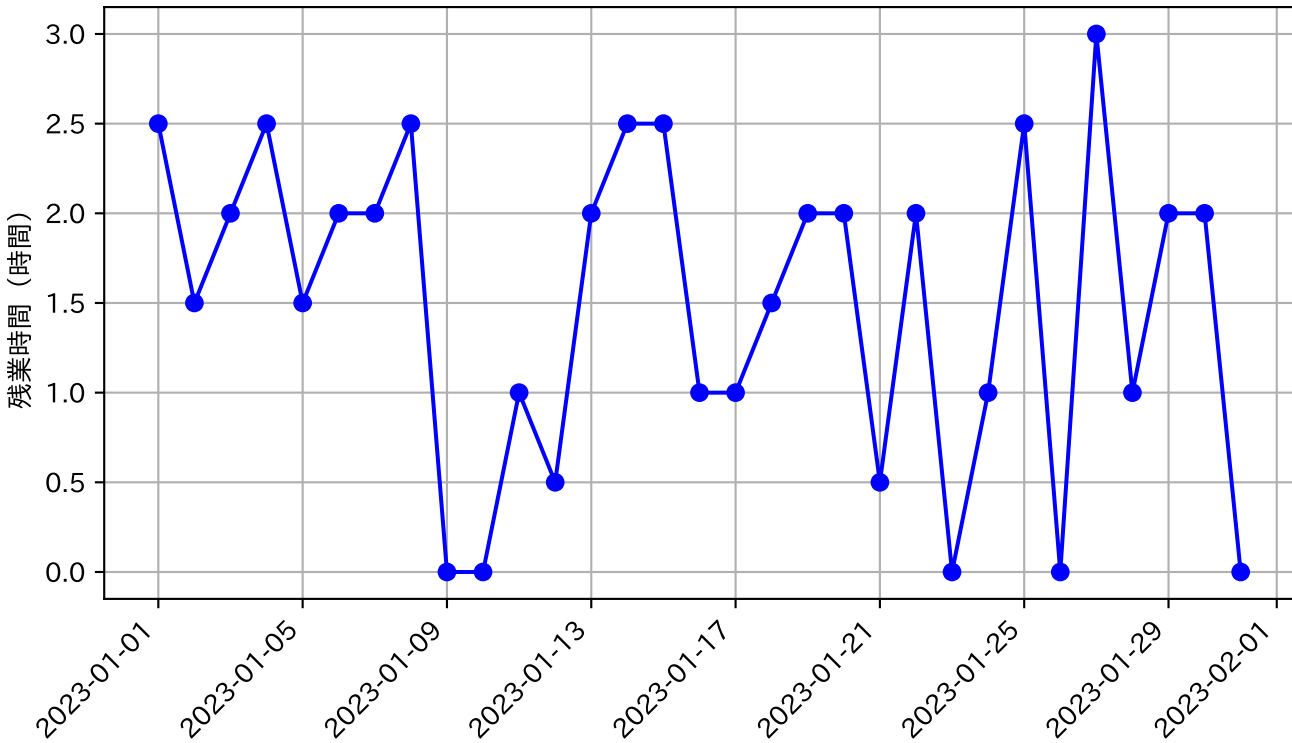


社員別：残業時間の傾向分析

鈴木次郎の残業時間推移



【傾向分析】

鈴木次郎さんの平均残業時間は多く、業務負荷や定時退社の促進が課題となる可能性があります。

【対応提案】業務配分の見直しや残業抑制施策の検討が必要です。

【注釈】本分析は社員別の平均残業時間をもとに傾向を把握しています。
平均値が0.5時間未満の場合は残業が少ないと判断し、1.5時間以上の場合は業務負荷の可能性を示唆します。
ただし、繁忙期や一部職種の偏りがある場合は個別の検討が必要です。